

薬剤科 DI ニュース

PGE₁ 製剤(リプル注 10 μ g・アリプロスト注)について

特徴

プロスタグランジン E₁(PGE₁)は、強力な血管拡張作用、血小板凝集抑制作用を有し、これらの製剤は、微細な脂肪粒子中に PGE₁ を溶解したリポ化(リポPGE₁)製剤であり、DDS の考えにより開発された製剤である。PGE₁ の問題点である肺での不活化を抑制し、さらに、脂肪粒子が特に障害された血管に分布しやすい特性を有することから病変部位に効率よく PGE₁ を集積させ、少量で優れた有効性を発揮する。このため緩徐に静注も可能となった PGE₁ 注射剤である。

(DDS: 既存の薬物に何らかの工夫を加え、必要な部位に適量到達させ、必要以外の部位への分布を抑える製剤技術)

効能又は効果(連続投与期間:DM には 4 週間まで、それ以外の疾患には 2 週間まで)

- ① 動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)における四肢潰瘍ならびに安静時疼痛の改善
- ② 進行性全身性硬化症及び全身性エリテマトーデスにおける皮膚潰瘍の改善
- ③ 糖尿病における皮膚潰瘍の改善
- ④ 振動病における末梢血行障害に伴う自覚症状の改善ならびに末梢循環・神経・運動機能障害の回復
- ⑤ 動脈管依存性先天性心疾患における動脈管の開存
- ⑥ 経上腸間膜動脈性門脈造影における造影能の改善(リプル注 10 μ g のみ)

用法及び用量に関連する使用上の注意

1. 本剤を輸液以外の他の薬剤と混和して使用しないこと。ただし血漿増量剤(デキストラン、ゼラチン製剤等)との混和は避けること。なお、持続投与を行う場合には、ライン内での凝集を防ぐため、必ず単独ラインで投与すること。
2. 経上腸間膜動脈性門脈造影に用いる場合には、凝集・クリーミングを起こす可能性があるため、造影剤と直接混和しないこと。また、本剤を投与した後、カテーテル内を生理食塩液で洗浄してから造影剤を投与すること。

相互作用

1、2、3 はすべて併用により出血傾向の増強を来すおそれがある。

<機序・危険因子>本剤は血小板凝集抑制作用を有するため、これらの薬剤との併用によりその作用を増強するおそれがある。

- 1.抗凝血剤(ワーファリン等)
- 2.血小板機能を抑制する薬剤(アスピリン、バイアスピリン、パナルジン、プレタール等)
- 3.薬剤名等 血栓溶解剤(ウロキナーゼ等)

リプル注 10 μ g 及びアリプロスト注との違い

医薬品名(1A 当たりの薬価:円)	リプル注 10 μ g/2mL/A (7,057)	アリプロスト注 10 μ g/2mL/A (3,240)
先発品もしくは後発品	先発品	後発品
添加物	精製ダイズ油	精製オリーブ油
経上腸間膜動脈性門脈造影における造影能の改善に対する適応(有る・無い)	有る	無い